

宇部のコミュニティ・スクール

令和元年度 やまぐち地域連携教育の集い（西部地域）

- 1 日 時 令和元年11月6日（水）
- 2 会 場 宇部市文化会館 研修ホール、文化ホール
- 3 内 容



（「えんたくん」利用の熟議）

（1）熟 議

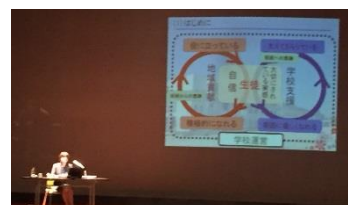
学校関係者、保護者、学校運営協議会委員がどのグループにもいるように、5～6人ずつに分かれた。「えんたくん」という丸い段ボールを膝の上に乗せ、さらに段ボールの上に置いた模造紙にフェルトペンで書いた付箋を貼りながら、「学校・家庭・地域をつなぐために私ができること」というテーマで話し合いが行われた。会話をしながら手を動かし、自由に考えを書いていく。グループのメンバーを入れ替え、計2回（ラウンド）話し合いを行った。最後に、話し合いの内容、気づきや発見を発表し、参加者全員でシェアした。

（2）所管説明 山口県教育庁義務教育課 藤井一憲 教育調整監

グローバル化、情報化等により、変化が激しく予測困難な未来が待ち受けている今、社会総がかりで子どもたちの育ちや学びに関わることが必要なこと。コミュニティ・スクールの仕組みがあると地域住民や保護者の意見を取り入れた学校運営や教育活動が保障されること、学校運営の方針等の継続性が担保されること、特定の個人の意見に左右されないこと等の効果が考えられること。課題・目標・ビジョン、アクション、成功体験等の情報の共有を図ることが重要なこと等が、説明された。

（3）実践発表

① 宇部市立上宇部中学校の実践を、吉松良子教頭が発表した。平成26年から改革がスタートしたこと。「課題」・「目標」・「計画」の改革のループと「計画」・「指導」・「評価」の改善ループのダブル・ループを大切にしたカリキュラム改善実践が、地域との安定した関係づくりと生徒の変容・新しい取組への広がり等の成果を生み出していることが、発表された。



（上宇部中学校の発表）

② 山口県立宇部総合支援学校の実践を、林功教頭が発表した。障害のある児童生徒の「自立と社会参加」をめざす上で地域貢献は非常に重要な学習であること。コミュニティ・スクールの仕組みを生かすことで学校外での作業学習の機会が増加したこと。「共生社会の実現」に向けた「win-win」の関係が構築されつつあること等が、発表された。

（4）パネルディスカッション



「子どもたちに求められている能力の育成に向けて、今、学校・家庭・地域がどのような考えの下で、何に、どのように取り組むべきか」というテーマで、広島県府中市教育委員会 宮田幸治主幹、美祢市立大嶺小学校 兼重彰洋校長、萩東中学校区 小崎由紀統括コーディネーターら3人のパネラーによるディスカッションが行われた。

学校と社会の連携・協働を行う上で、人や後継者がいないこと。資金・保険や学校間連携などに難しさがあること。児童生徒全員への体験・経験にしていくことに留意したこと。地域住民が授業に関わることで意識が変化したこと等が、パネラーから述べられ意見交換が行われた。

コミュニティ・スクールや地域協育ネットに関する活動情報をお寄せください。

宇部市教育委員会コミュニティスクール推進課

Tel 0836-37-2780

E-mail: ed-shakai@city.ube.yamaguchi.jp